

INTERVIEW WITH YOU

あなたにインタビュー

みよしの文芸

俳句

人生の七坂越えて月伸び
秋茄子や晩年美しきと思ふ
絵手紙の紫紺豊かに秋の茄子
秋茄子を褒めて賜はる散歩径

久野也寸志
野々山重夫
山田 年子
太田英美子

短歌

暑いのが苦手なので、秋になつて涼しくなると、木々などの写真を撮りに出掛けます。三好では、浮き雲の桟橋で子どもたちが遊ぶ姿を撮るものいです。音楽や読書も好きなので、室内樂を聴いたり、歴史関係の本を読んだりもします。またサンクトペテルブルク建都300周年記念参画事業の一環として開催されました。芸術や文化の交流を通して日本とロシアの友好を深めることを目的に、多くの作家が書道、彫刻、絵画などの作品を出展。絵画で、国内外においてさまざまな功績を残している渡邊さんも作品を出展することになりました。

「何が評価されたのでしょうか」と話すのは、アの古都サンクトペテルブルクのシユバーロフスキーアルカイックで開催された、「日友好藝術貢獻作家」の称号を授与されました。渡邊とめさんです。

この交流展は、ロシアにおける日本文化フェスティバル2003およびサンクトペテルブルク建都300周年記念参画事業の一環として開催されました。芸術や文化の交流を通して日本とロシアの友好を深めることを目的に、多くの作家が書道、彫刻、絵画などの作品を出展。絵画で、国内外においてさまざまな功績を残している渡邊さんも作品を出展することになりました。

渡邊とめさん（東山）

わたなべ・とめ 1942年生まれ。洋画家。新芸術協会正会員。サロン・ド・トキヨー正会員。師匠は小川博史氏。国際芸術文化賞、世界連邦湯川記念平和賞、世界平和賞（NGO 5団体）、モナコ公国名誉賞、海外芸術交流協会イタリア・ローマ市本部からM.V.A（最優秀アーティスト）を受賞。スウェーデンで活動中の画家、中島由夫氏と交流を持つ。

文化や芸術を通しての交流ということもあり、「この交流展の一つのテーマは世界平和。また日本とロシアの文化や芸術を通じての交流ということもあります。2ヶ月に1度くらいのペースで海外に出掛けている渡邊さん。ヨーロッパ各地やアメリカのサンゼルスなどで開催される美術展に作品を出展しています。また国内では、東京都美術館や銀座の文藝春秋画廊などに出演し、朝日新聞社などの主催によるチャリティー事業にも参加しています。

渡邊さんが主に描くのは「心象風景画」という心の中に浮かんだ姿や情景を描き出すもの。「自分が描きたいと思ったときに描いています。集中していると、一晩中描いていてもほんの30分くらいしかたつてないような気がします」とつづりますが、「もう描くのをやめようと思ったこともあります。自分が自身の告白だと思います。もっと自分自身を追求して、自由な絵を思つたどおりに描いていきたいです」と瞳を輝かせます。

これからも夢に向かって、素晴らしい作品を描いていくくださいね。

次回12月1日号のテーマは
「一年を振り返って」

広報情報課が皆さんとのところへ突撃インタビューに伺いますので、ご協力ください。また郵便や電子メールによる「声」もお待ちしています。（11月7日（金）締め切り）

9

高木 恒子さん
(三好上)吉田 亨さん
(新屋)石川 圭子さん
(三好丘)

外を歩くのが気持ちいい季節なので、よく散歩に出掛けます。サザンカやツバキの花を見ながら、ドングリやマツボックリなどが落ちている道を歩くのはなかなかいいですよ。また秋は食べ物もおいしい季節ですし、家族で旅行に行ったり、紅葉を見に行ったりもします。

暑いのが苦手なので、秋になつて涼しくなると、木々などの写真を撮りに出掛けます。三好では、浮き雲の桟橋で子どもたちが遊ぶ姿を撮るものいです。音楽や読書も好きなので、室内樂を聴いたり、歴史関係の本を読んだりもします。またサンクトペテルブルク建都300周年記念参画事業の一環として開催されました。芸術や文化の交流を通して日本とロシアの友好を深めることを目的に、多くの作家が書道、彫刻、絵画などの作品を出展。絵画で、国内外においてさまざまな功績を残している渡邊さんも作品を出展することになりました。

スポート、食欲、読書などいろいろありますね。わたしは食べ物がおいしい秋になると、ダイエットを兼ねてウォーキングをするようにしています。コースを歩いている途中でカキやクリなどを見かけると、秋を感じますね。また読書もよくするの近くのサンネットを利用しています。

秋といえば



▶▶▶プロフィル

わたなべ・とめ 1942年生まれ。洋画家。新芸術協会正会員。サロン・ド・トキヨー正会員。師匠は小川博史氏。国際芸術文化賞、世界連邦湯川記念平和賞、世界平和賞（NGO 5団体）、モナコ公国名誉賞、海外芸術交流協会イタリア・ローマ市本部からM.V.A（最優秀アーティスト）を受賞。スウェーデンで活動中の画家、中島由夫氏と交流を持つ。

文化や芸術を通しての交流ということもあります。2ヶ月に1度くらいのペースで海外に出掛けている渡邊さん。ヨーロッパ各地やアメリカのサンゼルスなどで開催される美術展に作品を出展しています。また国内では、東京都美術館や銀座の文藝春秋画廊などに出演し、朝日新聞社などの主催によるチャリティー事業にも参加しています。

渡邊さんが主に描くのは「心象風景画」という心の中に浮かんだ姿や情景を描き出すもの。「自分が描きたいと思ったときに描いています。集中していると、一晩中描いていてもほんの30分くらいしかたつてないような気がします」とつづりますが、「もう描くのをやめようと思ったこともあります。自分が自身の告白だと思います。もっと自分自身を追求して、自由な絵を思つたどおりに描いていきたいです」と瞳を輝かせます。



「カキツバタ群落」F30号

渡邊さんが今回の交流展で出展した作品は、「この交流展の一つのテーマは世界平和。また日本とロシアの文化や芸術を通しての交流ということもあります。2ヶ月に1度くらいのペースで海外に出掛けている渡邊さん。ヨーロッパ各地やアメリカのサンゼルスなどで開催される美術展に作品を出展しています。また国内では、東京都美術館や銀座の文藝春秋画廊などに出演し、朝日新聞社などの主催によるチャリティー事業にも参加しています。

「日友好藝術貢獻作家」の称号を授与